

α （アルファ）と β （ベータ）について① α と β とは



- 投資信託のリターンの源泉は、 α （アルファ）と β （ベータ）に分解することができる
- β とは市場からもたらされたリターン、 α とは投資信託を運用するマネージャーの銘柄選択や配分によってもたらされたリターンのことを指す
- リターンの源泉を把握することで、投資信託の特徴を把握することができる

α と β とは

投資信託に投資した際、リターンの源泉を把握することは重要です。リターンの源泉は大きく二つに分けて考えることができます。一つは市場全体が上昇（下落）したことでもたらされたリターン、もう一つは銘柄選択や配分によってもたらされたリターンです。前者、市場からもたらされたリターンのことを β 、後者、銘柄選択や配分によるリターンのことを α と言います。

例えば、高い利益成長が期待できる日本企業に厳選して投資を行うファンドがあったとします。説明を分かりやすくするため、日本の株式市場全体の動きを代表する指数をTOPIXとし、信託報酬などの運用コストもかからないと仮定します。この日本株ファンドの1年間のリターンが15%、TOPIXのリターンが7%だった場合、このファンドのリターンのうち7%は日本株全体の上昇からもたらされた、つまりTOPIXの上昇によるリターンと考えることができます。したがって、このファンドの β は7%となります。そして15%から7%を引いた8%が α であり、銘柄選択や配分によってもたらされたリターンと考えることができます。

リターンの源泉から投資信託の特徴を把握する

このように投資信託のリターンの源泉を α と β に分解することで、それぞれの投資信託の特徴を把握することができます。投資信託のリターンの大部分が β で占めているのであれば、その投資信託に組み入れられている証券は市場を代表する指数に近い構成であると考えられます。逆に α の比率が高ければ、市場を代表する指数と異なり、マネージャーの考えに基づいた構成であると言えます。

リスク指標としての β について

今回のコラムでは、 β を市場からもたらされたリターンという意味で用いていますが、 β にはもう一つの意味があります。それは、リスクを表す指標としての β です。運用の世界でリスクとは値動きの大きさのことを言います。リスクを表す代表的な指標は標準偏差であり、資産の値動きの大きさそのものを示します。例えば、標準偏差が大きい資産は、大きく下落する可能性もあれば大きく値上がりする可能性もあり、値動きの幅が大きいことを示します。一方リスク指標としての β は、資産の値動きの大きさそのものを表しているのではなく、市場全体の値動きに対する感応度を表します。市場全体の値動きの大きさを $\beta=1$ とし、 β が1よりも大きければ市場全体よりも値動きが大きく、1よりも小さければ市場全体よりも値動きは小さくなり、マイナスだと市場と逆の動きをすることを示します。ある投資信託の β が1.5だった場合、市場全体が10%上昇した際、この投資信託は15%上昇し、市場全体が10%下落すると15%下落するということを意味します。

このように市場全体の動きに対する感応度を把握するうえで、リスク指標としての β は有効です。しかし、そもそも市場を代表する指数をどのように定めるかという問題があります。また指数によって β の値が変わってしまうことに注意が必要です。

次回は、リターンの源泉である β についてより詳しくご説明したいと思います。

当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

「投信新世代」のための基礎知識



「iInfo」はピクテのインターネット専用「iTrust」シリーズの 受益者のみなさまにご提供する**会員限定サービス**です。

ピクテのiInfoには投資家のみなさまの、
「プロ並みのファンドや市場環境の情報がほしい」
「投資に役立つ知識を自分のペースで学びたい」
 …というご要望を満たす様々な情報をご用意しております。

具体的には、iTrustシリーズのバリュエーションレポートやピクテの短期・長期の投資環境見通しを紹介した戦略レポート「Barometer」
 「Secular Outlook」、投資の基本をやさしく学べる「BASE VIDEO & TEXT」、コラム「投信新世代のための基礎知識」など、様々なコンテンツが用意されています。

iInfo詳細はこちら

<https://www.pictet.co.jp/itrust/iinfo>

(「iInfo」で検索してください)



iInfo by Pictet Facebookページのご紹介

iInfoのFacebookページができました！
 ここでは、私たちが日々取り組んでいることや、
 みなさまのお役に立てそうなことなど、
 様々な情報をお届けしてまいります。

iInfo by Pictet Facebookページ
<https://m.facebook.com/iinfo.pictet.jp/>

(Facebookで「iInfo」
と検索してください)



当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。